つながる力で、つなぐ未来。
50
生協コープかごしま
50周年

虹色の花束

生協コープかごしま50周年記念誌

鹿児島市民生活協同組合設立趣意書

1960年代（昭和35年以降）は、物価値上げにつぐ値上げの10年間であったといえます。

昨年は16年ぶりの物価高といわれましたが、今年も春以来、キャベツ・玉ねぎなど生鮮食料品の暴騰、しょうゆ・パン・ビールなどの生活必需品、公共料金のあいつぐ値上げは、家計をあずかっている主婦が悲鳴をあげるほど異常なもので毎日のやりくりに悩まされました。

来年もまた、郵便・電話料金・医療費などの引きあげが予想され、私たちの生活は一層圧迫され苦しい状態は引続いていくものと思われます。

しかも、防腐剤・着色料をはじめとする有害な食品添加物や、リンゴで作ったいちごジャム、果汁とは縁もゆかりもない粉末ジュース、パルプからとった糊料（CMC）で作った羊かんなど、ひろいあげればきりがないほどの、うそつき食品が横行しています。米にはカドミウム、野菜・果物には農薬、牛乳のBHC残留が問題になり、そのうえ川には工場廃棄物、空気は排気ガスで汚され、私たちの住む生活環境は日増しに破壊され、今や私たちの健康すらおかされる事態となりました。

このような生活悪化の中で、全国各地で物価値上げや公害に反対する消費者の組織が生まれてきました。とくに消費者5団体の呼びかけによるカラーテレビの買い控え運動は、大きな成功をおさめ、消費者の団結が必要であることを示しています。

こうした中で、今年3月より開始された「くらしを守る消費者の会」は物価高と食品公害に対して、生活を守る主婦（消費者）の自主組織として発足しました。

この「くらしを守る消費者の会」は、会員主婦の熱心な努力と鹿児島大学生協の友好的支援のもとに牛乳・CO-OP商品・ジャガイモ・プロパンガス・白灯油等の共同購入を積極的に行ない、11月までに169班、1100世帯をこえる消費者の組織として成長しました。この間、私たちは「くらしを守る消費者の会」を通じて「消費者の生活は、消費者自らの努力と協同で守らなければならない」ことを体験し、全国消費者大会と九州地区生協婦人部研修会への参加と全国各地で発展する先輩生協の見学などをおこなって、生協運動について学び、生活協同組合は消費者自らが出資者であり、運営者であるという自主的で民主的な組織であることを知りました。

私たちの「よりよいものをより安く」という切実な要求を一つにまとめて、その事業活動を発展させ、お互いの文化的・経済的な改善向上をはかるという目的をみんなの努力で実現していきたいと思います。

私たち消費者が「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」というスローガンにみられる相互扶助の精神で協力し合うなら、楽しい町をつくり平和と民主主義の社会をつくりあげていくうえで大きな意味をもつものと思います。

私たちは「くらしを守る消費者の会」をより強い組織とするために「鹿児島市民生活協同組合」を設立することになり、昭和46年4月1日の創立総会を目指し設立準備をすすめています。

全国1千万人の生協組合員との協同の下に、主婦を中心とした消費者の砦としての強力な生活協同組合を鹿児島市で設立しようではありませんか。

この趣旨にご賛同いただき「鹿児島市民生協」にご加入下さいますようお願いいたします。

昭和45年12月18日

鹿児島市民生活協同組合設立発起人会

あいさつ

会長理事
山田 比呂美

2021年4月1日、生協コープかごしまは、創立50周年を迎えました。これまで永きに渡り生協を支え応援してくださいました全てのみなさまに感謝申し上げます。

私たちの生協は、「安い牛乳を充分に子どもに飲ませたい」という願いから、社会の表舞台に出ることのなかった家庭の主婦が自分の意志で出資金を出して互いに手を結び合い共同購入する知恵を生み出し始まりました。初年度の組合員1785人、出資金281万円からのスタートでした。そして組合員自身が積極的に生協を知らせ仲間を増やし、暮らしを守る運動からよりよい生活を創り出す運動へと発展させ、組合員32万人、出資金100億円を超える県内最大の消費者組織へと成長しました。

高度経済成長の歪みに抗して誕生し成長してきた私たちの生協でしたが、バブル景気とその崩壊、続く新自由主義市場経済の競争に翻弄され、2013年度末には大きな欠損金を出してしまいました。経営の危機は「自信をなくした協同組合人の中にある」との意味を身をもって知り、その反省のもと誇りと自信を取り戻すために2014年から中期再建3か年計画、続く中期改善4か年計画を組合員と職員が一丸となって進め今日に至りました。

現在元気を取り戻した生協コープかごしまは、予想だにしなかった新型コロナウィルス感染拡大の中でも組合員の暮らしを守ることを第一に全ての事業をしっかりと押し進めています。特に近年深刻さを増す買物困難な組合員や地域のみなさまへのお役立ちとして川内店の移動店舗は既に8年目を迎え、13店舗では店舗ふれあい便を、国分店としぶし店では福祉施設や地域公民館での訪問販売を、吉野店では麦の芽福祉会と共同して買物送迎を行なっています。また2018年鹿児島市内から始まった夕食宅配事業は全県展開目前まで広がっています。

組合員活動ではコロナ禍の中で“つながる”ことが充分には出来ませんが、創立15周年を機に始まった「くらしの助け合いの会」は全県下に広がり、くらしの援助活動と合わせて会員のつどいや「おしゃべりひろば」など多彩な活動交流がおこなわれています。「子育てひろば」も全19店舗で開かれ“屋根のある公園”のコンセプトは確実に次世代へと受け継がれています。また平和、食育、生活文化、家計、環境、商品など多様な分野での学習や活動が「コロナに負けない」を合言葉に動画やWebの積極的活用も模索しながら丁寧に行われています。

今回50周年の節目にあたり、生協に深く関わって来られたみなさまのお話をまとめた「50周年記念誌」を発行いたしました。歴史を記録した「50周年史」とは一味違い、その時その時代に活動された組合員や職員、生産者、お取引先など生協に関わってくださった方々の足跡と思いが綴られています。ひとつひとつが生協コープかごしまの歴史であり活動の証です。是非お時間をかけてじっくりとお読み頂ければ幸いに存じます。

『つながる力で、つなぐ未来』私たちは、生協活動に誇りと自信を持ち、未来へしっかりとつないで参ります。

あいさつ

理事長
松薗 孝夫

1971年に創立され50年経過、32万人を超える大きな消費者組織へと成長している生協コープかごしまの大きな節目に現職理事長として関わらせて頂いていることに感謝いたします。設立にご尽力頂いた諸先輩方、この間の組合員、職員、取引先、自治体や地域の組織・団体等の皆さんの協力や取組みに「感謝」しながら、設立時の組合員・役職員の熱き使命観を継承し新たな50年に向け「協同の力」をさらに結集することで、地域になくてはならない生活協同組合として持続的な成長を目指すことを改めて決意しているところです。

生活協同組合として、創立以来掲げてきたスローガン「よりよき生活と平和のために」「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」を大切にし、また、事業や運動・活動の指針として1995年国際協同組合同盟（ICA）総会で採択された「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」（定義・価値・原則）を方針・計画の基調としてきました。50年前に色々な社会的問題・課題（物価高、食品添加物問題、環境問題など）がある中で消費者自らが「自分たちの暮らしは自分たちで守っていく」という強い意志により設立された生協コープかごしまは現在、県民世帯数の4割を超える大きな消費者組織へと成長させて頂いています。子どもたちに安心して食べさせたいという思い、よりよき生活と平和を願う気持ちは現在へも引き継がれています。

少子高齢化が進む地域社会、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化など環境が大きく変化する状況において、昨年、私たちができること、ありたい姿を「2030年ビジョン（長期方針）」として描きました。「つながる力で、豊かな『地域の食とくらし』の創造」として具体的に実践して参ります。組合員と職員に寄り添い、地域の生活者に寄り添い、地域社会に寄り添い、地域の持続的発展のためにその一員として関わりをさらに高めて参ります。つながる力を発揮してSDGs（持続可能な開発目標）の基本理念である「誰一人取り残さない社会」をめざし安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために努力して参ります。

50年の節目を目前に世界的な新型コロナ感染症拡大が発生し、生活環境、事業や活動・運動環境の大きな変化があり、その変化への対応が求められています。人と人とのつながりを大切にする組織として、コミュニケーションを大切にする組織として、このような時に地域での人と人との結びつきはどのようにあり得るのか、事業や組合員活動のあり方はどうしたら良いのかが問われています。50周年という節目にあたり改めて生活協同組合としての事業や活動・運動の進め方の再構築が必要であると認識し、地域生活者に支持され、地域社会に開かれた組織としてさらなる成長を目指すために創立期の思いを受け継ぎ、協同組合の理念、価値、原則に基づき事業、活動を一体的に進め未来へつなげて参ります。記念誌発行にあたり、組合員・職員そして取引先の皆さん、日頃関わって頂いているすべての方々に改めて感謝申し上げます。

生活協同組合コープかごしま創立50周年に寄せて

鹿児島県知事　**塩田 康一**

生活協同組合コープかごしま創立50周年を心からお祝い申し上げます。

生活協同組合コープかごしまは、昭和46年に「鹿児島市民生活協同組合」として創立され、今日では、年間売上高が、328億円を超える食品等の供給事業をはじめ、介護・福祉事業や共済事業を展開されています。さらに，買い物弱者を支援する宅配事業、自治体との協定に基づく地域で支援を必要とする方の見守り活動や災害時の物資供給の協力、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組など、ローカルな視点とグローバルな視点をともに踏まえて、活動の幅を大きく広げておられます。活動区域も離島を含む全県へと広がり、現在では、約32万人の組合員を有する生活協同組合へと発展され、このたび創立50周年という記念すべき年を迎えられました。

このように大きな成長を遂げられたのは、設立当初に掲げられた「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」のスローガンのもと、活動に取り組んでこられた歴代の理事長をはじめ役職員や組合員の皆様のたゆまぬ御努力のたまものであり、深く敬意を表します。

今日、消費者を取り巻く環境は、高齢化・独居化の進行、地域コミュニティの衰退、デジタル化の進展などにより大きく変化しています。また，新型コロナウイルスの感染拡大により、消費者行動は大きな影響を受けております。一方、平成27年に国連サミットで採択されたSDGsの達成に向けて、消費者と事業者の協働による食品ロスの削減などの取組の気運が高まっています。

このような中で、県におきましては、令和3年度からの5年間を計画期間とする「第4次県消費者基本計画」を本年3月に策定し、「消費者の権利の尊重」、「消費者の自立」及び「消費生活における環境への配慮」を通し、県民の消費生活の安定及び向上に努めてまいります。引き続き、消費者行政の推進に御支援・御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

貴組合におかれましては、創立50周年を契機として、組合員の経済的、文化的生活の向上はもとより、地域社会の振興や福祉の向上、新型コロナウイルス感染症をはじめとする地域社会が直面する困難の克服に、一層貢献していただくことを期待しております。

これからも、組合の精神である“豊かな「地域の食とくらし」の創造”とSDGsの理念である“誰一人取り残さない社会の実現”に向け、ますます発展されますことを祈念いたします。

生活協同組合コープかごしま創立50周年を祝して

日本生活協同組合連合会 代表理事会長　本田 英一

生活協同組合コープかごしまの創立50周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。創立から、これまで多くの困難の中で歴史を積み重ねてこられた皆様のご苦労とご努力に対し心より敬意を表します。

貴生協におかれましては、設立時より「よりよき生活と平和のために」「ひとりがみんなのために みんなが ひとりのために」をスローガンに掲げ、安心できるくらしや豊かな地域社会づくりに貢献する事業・活動をすすめてこられました。2019年度末では、組合員数が32.8万人、供給高は328億の事業組織までの広がりに発展し、50周年を迎えられています。

50年という歴史の中で、店舗、宅配、福祉、共済などの事業展開と、環境、平和、ユニセフ、防災や被災者の支援活動など幅広く取り組まれ、組合員の願いを実現させることで暮らしに貢献し、今では県民世帯の4割を超える組織となりました。

地域社会の大きな変化に伴い組合員の暮らしも変化し続ける中で、変わらぬ協同組合の原理・原則に基づく組合員活動と事業活動と一体となった取り組みや、互いに学び合う職員の育成などを一貫してすすめられてきたことが、組織の成長の大きな原動力となってきたことと存じます。

また、各自治体との見守り協定の締結により、くらしの安心を広げるとともに、JAグループ、漁連など他の協同組合の皆様との協同・連携の輪も広げ、地域の様々な課題に取り組んでこられました。

2018年の日本生協連通常総会で、特別決議「コープSDGs行動宣言」が採択されました。全国の生協では、持続可能な生産と消費、健康づくり、防災・減災、環境保全、子どもや子育てを支援する活動が組合員の皆さんに参加いただきながら、さらに広く取り組まれています。貴生協が鹿児島の地で取り組まれている様々な活動も、SDGsで目指すことそのものであると存じます。

今、新型コロナウィルス感染症の拡大という世界に大きな影響を与える事態が継続している中で、協同組合が大切にしてきた「人と人とのつながり」をつくることがたいへん困難な状況になっています。このような時こそ、新しい形の「つながり」を模索しつつ、SDGsの「誰一人取り残さない」取り組みを、組合員、会員生協の皆様にご協力をいただきながら、地域の自治体を始め様々な組織や団体の皆様と連携し進めていきたいと存じます。

50周年を迎え、これからも、組合員の皆様と共に力を出し合い、よりよい地域の未来に向けてますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

prologue ― プロローグ

「生協コープかごしま」は、
1971年4月1日に鹿児島市で産声を上げました。
その頃の日本は、戦後の高度経済成長が社会に影を落とし、
主婦達はくらしに不安を抱えていました。
子どもの健康を守りたい、家族の生活を守りたい。
その願いが集まって「鹿児島市民生協」が誕生。
2021年4月1日に創立50周年を迎えました。

創立時の設立趣意書には、
自分達の手でくらしを守るという決意と共に、
「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」
という一節が力強く記されています。
その原点を貫き、組合員は助け合いの心を持ち続け、楽しい町をつくり、
平和と民主主義の社会をつくることを目指して、時を重ねてきました。

「生協コープかごしま」の歴史は、
関わるすべての人々によって紡がれてきたストーリーです。
本誌では、歴史を様々な立場から見てこられた方々のお話を集めました。
協同組合の助け合いのシンボル「虹」に想いを託し、
花びらが集まって花となり、一輪の花が集まって美しい花束となる姿に、
「生協コープかごしま」の物語を重ねました。

歴史をつくってきたすべての人々への感謝の贈り物として、
未来をつくっていくあらたな人々への希望の贈り物として、
本誌「虹色の花束」をお届けします。

contents ― 目次

設立趣意書 1

あいさつ 2

・会長理事　山田 比呂美 …… 2
・理事長　松薗 孝夫 …… 3

祝辞 4

・鹿児島県知事　塩田 康一 …… 4
・日本生活協同組合連合会 代表理事会長　本田 英一 …… 5

プロローグ …… 6
目 次 …… 7

あの日、あの時、あの笑顔。 8
写真でつづる50年の物語

・1970年から1980年 …… 8
・1981年から1990年 …… 10
・1991年から2000年 …… 12
・2001年から2010年 …… 14
・2011年から2020年 …… 16

ひとりがみんなのために
みんながひとりのために 18
共に歩んだ50年

よりよき生活と平和のために 38
願いを寄せ合いみんなでつくった50年

きずな強く、広がる協同・連帯 57

50周年記念誌
編集委員会座談会 64

資料編 75

・生協コープかごしまの概要 …… 76
・市町村別組織状況 …… 77
・事業の推移 …… 78
・歴代役員名簿 …… 79
・略年表 …… 83
・協同組合のアイデンティティに関するICA声明 …… 95
・2030年ビジョン …… 96
・編集後記 …… 98

1970

あの日、あの時、あの笑顔。

くらしを守る消費者の会の牛乳配達はじまる（'70年3月）

消費者の集いで地域生協づくりを確認（'70年10月）

創立総会、鹿児島市民生協が誕生（'71年4月）

第1回消費者大会を紫原で開催（'71年10月）

コープ牛乳が誕生（'71年5月）

市民生協本部兼倉庫が稼働（'71年4月）

生協米が誕生。
業界に先駆け産地、銘柄、
搗精日付を表示（'71年8月）

1号店「紫原店」がオープン（'72年10月）

物価値上げに反対し「くらしを守る組合員集会」（'74年2月）

1980

写真でつづる50年の物語

酒の員外利用許可を求め連日県につめかけた（'74年4月）

第1回運動会、地区対抗で交流（'74年11月）

2号店「谷山店」オープン（'75年5月）

「より良い洗剤」について学習会（'75年8月）

コープ食パンを開発（'75年11月）

第1回「春の生協まつり」与次郎ヶ浜で開催（'77年4月）

OPP、TBZ無添加のレモン取扱い開始
（'77年10月）

「バケツ1杯の水を送ろう」
国際児童年でユニセフ募金を開始
（'79年7月）

84年4月より「かごしま県民生協」に名称変更することを
臨時総代会で決定（'80年1月）

1981

あの日、あの時、あの笑顔。

ハム・ソーセージ開発委員会（'81年）

SSDⅡ（第2回軍縮特別総会）に代表派遣（'82年6月）

商品センターにピックディレクター導入（'83年8月）

ミートセンターが稼働（'83年2月）

母と子の鹿児島戦争空襲展に
初めて取り組む（'84年7月）

離島の共同購入「特販事業」がスタート（'85年12月）

コープ種子島バターを開発（'86年5月）

15周年で生活文化作品展（'86年9月）

「コープくらしの助け合いの会」が発足（'86年10月）

1990

写真でつづる50年の物語

生協規制問題を考えるフォーラム開催（'87年1月）

売上税に反対し消費者・市民の集い開催（'87年4月）

県漁連との提携調印式（'87年11月）

MBCラジオ「さつまお笑い劇場」
番組提供開始（'88年4月）

姶良商品センターを開設（'88年4月）

麦の芽福祉会と牛乳パック回収運動交流会（'88年5月）

第3回国連軍縮総会
（SSDⅢ）に
代表3名を派遣
（'88年6月）

南谷山店300坪タイプで新装開店（'90年10月）

鹿児島市で「戦争・空襲追体験ウォーキング」開催（'89年8月）

20周年祝う会　県内各地でわらび座公演（'91年9月）

コープ九州事業連合結成総会（'92年7月）

川内に地方1号店オープン（'92年10月）

「ICA東京大会in鹿児島」を開催（'92年11月）

1991

あの日、あの時、あの笑顔。

黒潮ボックスを開始（'93年6月）

「8・6豪雨災害」で城西店、玉竜店、
コープガイドが被災（'93年8月）

全国生協からの豪雨災害見舞金を
鹿児島県に贈呈（'93年10月）

大気汚染に配慮したLPGトラックを導入（'94年8月）

阪神淡路大震災被災地に支援物資を満載し
第1陣出発（'95年1月）

円高還元を求め県、九電、石商に要請（'95年6月）

産直10周年で羅臼秋鮭交流会開催（'96年11月）

屋久島環境文化保護募金贈呈式（'96年8月）

写真でつづる50年の物語

2000

経済連と産直鶏肉提携で調印（'97年10月）

産直センター稼働、商品検査センターも併設（'98年4月）

第28回通常総代会で「福祉事業」の追加を決定（'99年5月）

食品衛生法改正を求め署名運動（'00年10月）

30周年生協まつり開催（'01年10月）

文化鑑賞組織『まい・夢』を設立（'01年6月）

牛海綿状脳症（BSE）の風評被害に苦しむ
産直牛肉生産者を訪問、激励
（'01年11月）

2001

あの日、あの時、あの笑顔。

子育てひろばが紫原店でスタート（'02年9月）

協同農園「わかば」で初収穫（'02年9月）

鹿児島市と災害時協定を締結（'02年10月）

イラク攻撃中止を求め集会（'03年3月）

県に食品安全行政の充実強化を求める
請願書を提出（'03年11月）

県にBSE対策に関する要望書を提出（'04年10月）

協同組合の誕生物語「ロッチデールの虹」を
県内の小中高校や図書館に贈呈（'06年4月）

2010

写真でつづる50年の物語

「子ども110番」の取り組みスタート（'07年10月）

牛乳生産者励まし交流会（'08年8月）

笠沙漁協との提携調印式（'09年3月）

NPT再検討会議に2名の代表を派遣（'10年4月）

東日本大震災支援救援物資配送の第1陣出発（'11年3月）

くすの木自然館との環境保全活動スタート（'11年12月）

2011 東日本大震災支援募金活動（'11年3月～）

店舗で「ふれあい便」スタート（'12年4月）

2011

あの日、あの時、あの笑顔。

デイサービス田上
にじいろオープン（'12年9月）

薩摩川内市で移動店舗を開始（'13年2月）

次世代育成「協同組合塾」を開校（'14年9月）

NPT再検討会議に代表派遣
ニューヨークでデモ行進（'15年4月）

憲法を守れトラックパレード（'15年4月）

熊本地震で緊急物資支援（’16年4月）

熊本地震仮設住宅で鶏飯提供（’17年3月）

県ウナギ資源増殖対策協議会でうなぎ放流事業（’17年4月）

麦の芽福祉会に委託した
移動販売事業開始（’18年1月）

お弁当宅配を開始（’18年3月）

写真でつづる50年の物語

2020

麦の芽福祉会との共同事業
「買物送迎」を吉野店で開始（’20年2月）

ユニセフ募金贈呈　累計1億円を突破（’20年3月）

新型コロナウィルスの拡大の中で
大学生にマスクや食品の提供、
医療生協の医療従事者に支援物資を提供
（’20年）

県知事に全国の生協からの7月豪雨募金を贈呈（’20年12月）